

平成 30 年度豊能薬事懇話会 議事録

○日 時 平成 30 年 8 月 30 日 午後 2 時から 4 時

○場 所 大阪府池田保健所 2 階大会議室

1. 委員紹介

今年度新たに委員になられた 4 名について紹介

- ・ 下村 一徳委員（市立池田病院 薬剤部長）
- ・ 岡田 和也委員（池田市子ども・健康部長）
- ・ 大東 幹彦委員（豊中市健康福祉部長）
- ・ 船津 謙一委員（吹田市健康医療審議監）

2. 議事内容

(1) 薬局・薬剤師をとりまく環境の変化について（一般社団法人 大阪府薬剤師会）

○健康サポート薬局について

- ・ 健康サポート薬局とはかかりつけ薬剤師・薬局の機能を備えた上で、患者への健康づくり、地域住民への健康支援や支援地域包括ケア、セルフメディケーションの推進を行う薬局である。
- ・ 厚生労働省では各中学校区に 1 つの健康サポート薬局を目指している。大阪府下では約 460 薬局必要であるが、現在 114 薬局に留まっている。
- ・ 今年度大阪府薬剤師会において「健康サポート薬局推進委員会」を設置し、健康サポート薬局を目指す薬局を支援する。

○敷地内薬局について

- ・ 平成 27 年 6 月規制改革の閣議決定にて病院内の薬局設立が可能となった。
- ・ 大阪府下では 3 病院に 5 薬局が敷地内薬局である。
- ・ 医療機関と薬局との間に経営的なつながりがあると、患者のためのかかりつけ薬剤師・薬局が進まない恐れがあるため薬剤師会としては反対している。近畿厚生局に対し経営的独立性の担保がなされているかチェックするよう申し立てている。

○災害時調剤支援車について

- ・ 平成 30 年 8 月 6 日に㈱ユヤマと締結し、大阪府薬剤師会から災害支援車の稼働が可能となった。
- ・ 全国では 13 車ある。

●質疑応答

Q：災害支援車は普段どこに保管しているのか。

A：㈱ユヤマにて保管。

Q：健康サポートについて。薬局の健康相談とは？保健センターや市民センターでも健康相談はできるが。

A：今までは薬局＝薬の相談であった。これからは介護の相談やセルフメディケーションを薬局において発信する必要がある。

Q：かかりつけ薬局について、ユーザーの立場で言えば病院の近くか家の近くの薬局に行くと思うが。

A：あくまで薬局を選ぶのは患者。患者に選んでもらえるように薬局側が頑張る必要がある。

Q：敷地内薬局について。薬剤師会は反対の方針だが、国は規制緩和の考えであればこれから敷地内薬局は増えてくことになる。薬局の立場としては今後どのように動く予定か？

A：国が規制緩和の方針を進めている以上止めることはできないが、経営的つながりやかかりつけ薬局の衰退が懸念されるため、府薬剤師会としては反対の立場ということを表明していく。

(2) 第7次大阪府医療計画について (池田保健所)

○計画のポイント

「地域包括ケアシステムを支える医療の充実」と「二次医療圏内単位を基本とした医療体制の整備」

○薬剤師の確保及び資質の向上

- ・在宅医療を始めるにあたり薬剤師と他職種との情報連携が不足している。薬学知識だけでなく幅広い医療知識を習得し、多職種と適切に連携できる薬剤師の育成が必要となる。
- ・2020年までに年1回以上、在宅医療に関する知識向上の研修を実施し、年200名以上の参加を目指す。

○豊能二次医療圏における今後の取組

- ・24時間365日の在宅医療推進のため、薬剤師会を中心とした薬局ネットワーク化の取組を支援する。

●質疑応答

Q：薬局の24時間対応の話があったが委員の方の意見はどうか

A：24時間の薬局を支援は理想的であるが、豊中市で24時間営業できる薬局は設備の構造上2～3件である。夜中に女性薬剤師1名で任せることもできないため、現状難しいと考える。

A：箕面市では電話で24時間対応を行っている。現場で窓口を24時間開けるのは難しい。

(3) 地域医療介護総合確保基金事業 (薬局の在宅医療推進事業) の進捗状況について (大阪府薬務課)

○現状と課題

- ・訪問薬剤管理に取組む薬局や無菌調剤対応薬局の普及は一定の進展をしているが、急増する在宅患者の需要に対応することは未だ困難。

○平成30年度事業概要

- ・在宅医療に取り組む薬局薬剤師(約200名)を対象に在宅医療導入研修を実施する(座学・同行研修)。
- ・入退院時における医療機関と薬局間での情報共有等、円滑な在宅医療へ移行のための取組等を支援するモデル事業の実施。

(4) 平成29年度患者のための薬局ビジョン推進事業の結果報告と今後の取組予定について (箕面市薬剤師会)

○平成29年事業(服薬管理情報の共有)の結果と検討

(メリット)

～薬局～

- ・病院から「薬剤管理情報提供書」を受け取ることで有益な薬剤管理が可能となった。
- ・病名や入院中の様子が分かることで、その後の患者と接する上で有益であった。
- ・がん患者は当人ではなく家族が来局する場合もあり、家族では併用薬等の情報が不明な場合が多い。病院から情報提供があることにより、薬学的管理がしやすくなった。

～病院～

- ・市中の薬局との繋がりを感じた。
- ・薬剤に関して管理状況等、詳細な情報提供が可能になった。

～患者～

- ・病院から薬局になっても継続した投薬管理指導が受けられるので安心できた。

(デメリット)

～病院～

- ・作成に要する時間は患者1人当たり45分はかかり、日々の業務に組み込む負担は大きい。
- ・項目が多い。薬歴や薬物治療の予定、副作用で見てほしいポイントに絞ると、もう少し早く作成できると考える。
- ・薬局に指導がどのように役立ったのか、それにより何か変化があったのか等、その後の情報が分からない。
- ・提供方法がFAXのみであり、メールでやり取りできないか。

○平成30年度の取組

- ・優先順位の低いADL等項目削減や提供手段等を見直し、情報提供自体の継続を考察していく。
- ・退院時だけでなく、入院時に薬局側から病院へ情報提供（入院時の服用薬の状況等）を行う内容や方法についても併せて議論していく。

●質疑応答

Q：診療報酬、調剤報酬についてコストは？

A：ノーコスト。

Q：通常業務以外にこの作成に1時間費やすのは大変。しかし医師の立場から言えば医師は毎回やっている。薬局、病院間の連携は重要であり、慣れればもっと効率的にできると思う。病院薬剤師、薬局薬剤師双方のスキルアップに繋がり患者のためにもつながると感じた。

Q：とてもいい取組だと理解している。しかし病院の立場から言うと、時間的コストを要し、フィー（報酬）がないのはあり得ない。やり方については精査する必要がある。お薬手帳や電子カルテの情報を利用して薬局に情報提供できないか。病院薬局間の連携、スキルアップのためにいい事業であるが、これが広まっていくにはフィーの導入が不可欠だと思う。

A：そのとおりで、これを進めていくうえで診療報酬というのは大きな意味を持つ。将来的には診療報酬がついてくるのが本当に府民のためになると確信している。あと病院のアンケートにもあったが、効率化のための情報提供手段として、例えば糖尿病連携手帳のように1冊にまとめる方がいいのでは、という意見もあった。

(5) 豊能圏域各薬剤師会での取組み事業について（報告）

○豊中市薬剤師会

①刀根山病院の院外処方せんにおける疑義照会事前合意プロトコルについて

- ・薬局と病院が事前に作成・合意されたプロトコルに基づき、薬剤師の裁量の範囲で一部の形式的な疑義照会を不要にした。
- ・件数は残薬による投与日数調整や内服薬の剤型変更が多く、1件当たり2,790円（1～3月）、4,265円（4～6月）の経済効果となった。

②関西メディカル病院 ICTネットについて

- ・関西メディカル病院での診療に関する内容を患者同意の元かかりつけ医やかかりつけ薬剤師が閲覧できるシステム（豊中市、箕面市、吹田市の58施設が利用）。
- ・今後は医療と介護の連携である「虹ネット」で運用されているMCS（メディカルケアステーション）等とのリンクも検討

○池田市薬剤師会

①献血サポート薬局活動について

- ・現在6薬局が献血サポート薬局として認定
- ・8月7日に池田駅前にて献血サポート薬局の広報と府採血者へのサポート活動を実施した。

②市立池田病院との地域連携について

- ・医療機関をまとめた「医療連携マップ」について今後はネット環境で閲覧可能にしていく。

③池田市委託健康相談薬局事業について

- ・日本薬剤師会学術大会での研究発表に向けて取り組んでいる。

○吹田市薬剤師会

①薬局DOTSについて

- ・薬局で服薬の状況を確認することで、保健所の開所時間より開局時間が長い場合通勤されている方の確認もカバー可能になった。
- ・薬剤師が積極的に副作用等の確認を行え、薬学的知見を患者に伝えることが可能。
- ・7月24日に関西大学教授及び、はびきの医療センター部長を招き勉強会を実施した。今後も継続して勉強会を行う予定。
- ・今後は保健所と連携して、具体的な患者指導を実施していきたい。

●質疑応答

Q：豊中市薬剤師会のモデル事業については、経済的な効果や病院薬局間の事務の簡素化といった観点からその成果が認められていると思う。また豊中市との連携で服薬等の保健指導のサポートも実施するなど、今後も連携を密にしていきたい。

Q：豊中市薬剤師会のICT情報連携について、より具体的な多職種連携の取組が参考になった。

Q：昨年の薬事懇話会で、吹田市薬剤師会での24時間体制に向けて、吹田保健所と連携していくという話があったが、その後何か動きはあったか。

A：吹田市薬剤師会では薬局ネットワークを構築するために勉強会を行うなど、下地を作っているとおりであり、今後も継続していく予定。

○その他の意見について

- ・豊能町については病院がなく、兵庫や京都と隣接しているため、色々な連携が必要であることや、町での救急搬送にはまず兵庫の川西市民病院に搬送されているが、今後川西市民病院が移転することから、ますます病院との連携が重要になってくると感じている。また、豊能町は高齢化率が高いため、在宅や多職種連携を上手に活用できるよう今後も試行錯誤をしていきたい。
- ・能勢町も豊能町と同じく高齢化が進む町として在宅患者のケアを考えていく中で、今年多職種連携でICTを活用したネットワークの構築を検討しているが、他の方法等色々な情報について、こういった場を活用して各委員から話を聞ければと考えている。
また、能勢町には薬局が少ないが、もし24時間対応で薬剤師の方の協力を得られるのであれば、訪問調剤もお願いしていきたい。

(6) その他

○大阪府豊能保健医療協議会について

- ・平成31年度より豊能薬事懇話会の事務局が次のとおり変更。
池田保健所（～平成30年度）→吹田保健所（平成31年度～）